

ワークショップ 2

「十二指腸表在腫瘍の診断と治療の最前線」

Cutting edge of Endoscopic diagnosis and treatment for superficial non-ampullary duodenal epithelial tumor

司会 塩谷 昭子 (川崎医科大学消化器内科)
布袋屋 修 (虎の門病院)

2021年に十二指腸癌診療ガイドラインが発行されたものの、十二指腸表在腫瘍の診断・治療に関してはまだ多くの問題が残されている。近年は検診パンエンドスコーピーにおける拾い上げから、画像強調内視鏡・(超)拡大内視鏡検査による精密診断まで様々なモダリティーを用いた診断法が急速に発展している。治療としては、安全性と根治性を両立すべく cold snare polypectomy (CSP) や underwater EMR などが登場し、ESDの安全性を担保すべく D-LECS も保険収載された。本セッションでは、これらの十二指腸表在性腫瘍に対する診断・治療につき最新の知見を広く募集し今後の議論の礎としたい。